

平成22年度 大田区立洗足池小学校 自己評価 報告書

1 自校の課題及び特色ある教育活動における自己評価

大項目	評価項目	評価の視点	改善策	学校関係者記入欄
				コメント
考える子	授業スタンダードである洗小基準を設定し、各教科においてその基準に沿った授業を行っている。	洗小基準による指導の重点の設定	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。 ・新学習指導要領全面实施にあわせて、22年度中に洗小基準の見直しを行う。	・発言、発表の場面に工夫が見られ努力している。 ・全校で統一基準を設け、目標達成度合いなどを確認し合っていることは評価に値する。 ・基準を見直すタイミングを指導要領改訂時に留めることなく適宜行うことで子どもたちの質に見合う授業に繋げてもらいたい。
思いやる子	異学年・異年齢による集団（地域班）を構成し、温かい人間関係の形成を図っている。	スポーツ祭り、全校遠足などでの地域班活動	・地域班活動は人間形成に有効に働いている。23年度は共通認識を持って規範意識向上にあたるよう、チェックリストを作成する。	・上級生が自信をもって下級生に接している場面は好感がもてた。 ・地域班活動は大変意味のあるものだが、下の子に対する思いやりは既に育まれているので、問題は同学年の中での人間関係かと思う。ただ、学校は十分に努力しており、家庭との連携が課題ではないか。 ・縦割りでの活動、生活は、各学年の子どもたちに自覚と責任感を達成させることに役立っている。さらなる向上を期待する。（教職員の自己評価はかなり厳しい） ・洗小便りで様々な工夫されていることがわかった。
やりぬく子	児童の自主的、自発的な活動の場面をつくり、自ら目的をもって行動する力を養っている	常時活動による委員会活動 ボランティア活動	全校で一斉に取り組む機会を設ける。学習発表会において目標や努力する方法を書き込むカードを使用する。23年度からは同じようなカードを学年で作成し、最後までやりぬく力を育成していく。	・ねばりづよい子を育てる難しさを感じる。厳しさ、やさしさのバランスが大切である。 ・高学年は委員会活動での自主的な取り組みが目玉。十分努力していると思うが、学習面での不足部分を反省し学習発表会に向けて工夫しているようなので成果を期待する。 ・学校生活の中、行事の活動では、上級生の「最後までしっかりと」という気持ちが行動に現れている。 ・下級生に対して2年後、3年後をイメージさせる指導、また多少消極的な子のレベルアップをしていくことが大事になる。
元気な子	基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、基礎体力の向上を目指し、持久力と筋力の保持増進に努めている。	持久走、縄跳びなどの取り組み	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・なわとびの指導の工夫は感心した。 ・30分休みの持久走は見えていて楽しい。全校一斉にできる小規模校ならではの活動である。 ・洗小の子どもたちは外遊びが大好きである。スポーツという枠に捉われず「遊び」を通して体力向上に繋げて欲しい。 ・現在の取り組みはぜひ継続を願う。

2 指導課事業における自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	評価項目	評価の視点	改善策	学校関係者記入欄
				コメント
学力向上	大田区学習効果測定の結果を分析し、全教員で授業改善に取り組んでいる。	授業改善プランの実行 全教員による共通理解	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・わかりやすい授業、声の大きさの工夫、視覚にうったえる教材に努力している。 ・学年毎、教科毎に細かくプランを立て教員同士で認識を共有している。 ・効果測定から結果確認、プラン見直しのサイクルは上手に回っている。現場で実施後、見直した内容の成果、子どもたちの反応などフォローの実施と次年度への反映を願う。 ・プロジェクターなど新たなツールを積極的に活用しているので「4」が適当である。
	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業を行っている。	教育成果の数値化 算数ステップ学習 放課後および土曜日の算数クラブ	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・算数の少人数授業など、基本の定着に工夫をしている。 ・地域連絡協議会の報告から取り組みは「4」と評価すべきと判断した。 ・個別授業等を行うことで取りこぼし無く中学授業へ移行が出来るよう今後も指導を望む。 ・積み上げ型の教材に対するフォロー、施策は効果的である。底上げによる平均レベルの維持向上が子どもたちの学力アップにもつながっている。
	小学校外国語活動の充実に向けている。	コミュニケーションスキルの育成 教材・教具の充実	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・ネイティブな先生から体験を重視した授業に取り組んでいる。 ・積極的に始まって数年なので、現在の1年生が6年生になる頃にある程度の日常会話ができるようになるのか。 ・会話を中心とした参加型の授業であり効果が期待できる。子どもたちの興味を引き付け積極的に入り込んでもらえる工夫の継続を望む。
人間力向上	規範意識向上プログラムに基づいた教育活動を推進している。	自他を尊重する態度の育成 道徳授業の充実 地区公開講座での啓発	・週目標の評価を徹底し、目標に掲げた行動はどの学級でも100%達成を目指す。 ・挨拶、姿勢、言葉遣いは年間を通じて重点目標にしてその実施状況を振り返る。 ・低中高別の生活指導朝会を児童の実態に合わせて有効活用する。 ・規範意識の向上のために、チェックリストを作成し活用する。	・目標を定めて実行する姿勢が効果を上げている。教員の話し合いの成果を期待する。 ・廊下に並んだ手拭い袋がきちんと揃っていたと、副校長が写真入りで書いた手紙がクラスに掲示されている。こういった心遣いや声かけは児童に響いていると思う。学校で学んだことを家庭でも継続して行けるとよい。 ・できること、できないことがはっきりしている子と、同じ様に実践している子とそうでない子も二極化している。学校での指導が一人になった時、外でもしっかり行えることも目標にして欲しい。 ・「助け合う」「相手を尊重する」など、人と人とのつながりの重要性を学年レベルに合わせた指導強化を願う。 ・学校で行う「しつけ」は、まず「家庭」が基本である。このことをこれまで以上に保護者に理解してもらってはどうか。
	早寝・早起き・朝ごはんの推進を図るために家庭における基本的な生活習慣の確立を啓発している。	基本的な生活習慣の確立 家庭への啓発	・学校便り、保護便り、保護者会などで引き続き説明し理解を得る。	・「洗小江戸しぐさ」はすばらしい。ノーチャイムも自主性を育てている。 ・便りによる啓発は評価する。子どもから親への働きかけが効果的かもしれない。 ・学校だけが囃しても向上できる課題ではない。個別指導的に徹底した家庭との対話が必要である。
一人一人に向き合う教育	定期的な教育相談を実施し、児童・生徒の心に向き合う教育を推進している。	月例特別支援会開催 夏季休業日に登校日の設定	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・一人ひとりの子どもを大切にしたい実践をしている。 ・問題/課題発生時に、対象者の話をしっかり聞き、解決策を提示するやり方はとても難しい子どもたちも納得できる。
	問題行動の未然防止及び早期発見・解決に向けて努力している。	生活行動調査 スクールカウンセラーとの連携	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・特別支援教育にもしっかりと取り組んでいる。 ・洗小便りのスクールカウンセラーのコラムに興味深く読んでいる。プライバシーへの配慮だろうが、スクールカウンセラーの活動成果が見えにくい。 ・スクールカウンセラーのシステムや調査の実施は評価できる。 ・少人数でのクラス運営もあり、先生方の目が行き届いている。学年間の情報共有や経験からのアドバイスなど教員間での縦のフォロー体制の維持にも期待する。
教員の指導力向上	校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努めている。	個人研修システムを活用した授業改善 技術伝承会	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・スキルアップ研修に校長自らも取り組んでいる点はよい。 ・取り組みの内容から「4」と評価すべきと判断した。 ・ベテランと若手教員の授業の違いを見た。経験も大切だが、少しでも差を縮められるよう研修に期待する。 ・教員間での勉強会、講演会なども開催されていることは評価できる。ベテランと若手の間に壁を作らず活性化を図って欲しい。
	授業改善リーダーによる公開授業への参加、指導課主催など校外で行われる各種研修会に参加し、教員の指導力の向上に努めている。	能力開発 授業改善セミナー参加	・補教体制を組んだり、代表で参加し情報を共有するなど手段を検討し、外に出て学ぶ姿勢を維持する。 ・「先生の本棚」の充実を図る。	・さらなる研究の推進に期待する。若手の教員の育成が楽しみである。 ・多忙の中、外部講習（研修）を受けるのは難しいだろうが、改善策の実施により新しい事も吸収していけると素晴らしい。 ・ノウハウの共有化は必要なことであり、学校として大きな財産である。貯えたものをどう生かすか、いかに活用していくかを含め、共有化及び各個人へのフィードバックが可能な施策を検討して欲しい。
地域校と共に取り組む	相互理解と信頼をはくむ開かれた学校づくりに努めている。	週休日の学校公開 保護者による授業評価 学校ホームページ、掲示板などによる積極的な情報発信	・効果ありと判断し、引き続き継続していく。	・連携をとって努力している。資料作成もよくやっている。 ・保護者アンケートの結果に各学年での取り組みの内容を示した点は昨年度の報告書を踏まえた改善点である。 ・ホームページはもう少し活用の余地がある。 ・学校に足を運んでいただくには、学校/児童/保護者も地域に出ていく必要がある。地域イベントへの参加を校長、副校長だけでなく、担任が一人でも二人でも児童と一緒に参加することを考えていく必要がある。

○自己評価の「評価」は、4：よく達成されている 3：おおむね達成されている 2：達成が不十分である 1：達成されていない の4段階で行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を選択しまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価は適切ではない C：評価のための資料が不足している D：評価は不可能である の4点で行う。